

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成18年1月19日(2006.1.19)

【公開番号】特開2004-97831(P2004-97831A)

【公開日】平成16年4月2日(2004.4.2)

【年通号数】公開・登録公報2004-013

【出願番号】特願2003-359401(P2003-359401)

【国際特許分類】

D 0 6 F 58/02 (2006.01)

F 2 6 B 11/04 (2006.01)

【F I】

D 0 6 F 58/02 Z

F 2 6 B 11/04

【手続補正書】

【提出日】平成17年11月28日(2005.11.28)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

左右両端が開口するとともに周面を多孔板で形成し、内部に被乾燥物が投入されて、フレーム内で回転する横型円筒形の内胴と、

加熱空気を前記内胴を通って外部へ送風するファンと、

前記フレームに固定されて、前記ファンにより前記内胴に導入される前記加熱空気を前記内胴の左右開口から前記内胴内へ吹き込む一対の吹込口とを備えることを特徴とする乾燥機。

【請求項2】

請求項1に記載の乾燥機において、

前記内胴の一方端の投入側開口に対応する被乾燥物の投入口と、

前記内胴の他端の取出側開口に対応する被乾燥物の取出口とをさらに備え、

前記一対の吹込口は、前記投入口および前記取出口の外部上方に設けられていることを特徴とする乾燥機。

【請求項3】

請求項2に記載の乾燥機において、

前記一対の吹込口は、互いに略対向する位置に設けられていることを特徴とする乾燥機。

【請求項4】

請求項1～3のいずれか一項に記載の乾燥機において、

前記各吹込口から前記内胴内へ吹き込まれる前記加熱空気の風量が略等しくなるように前記加熱空気を分配する分配手段をさらに備えることを特徴とする乾燥機。

【請求項5】

請求項2～4のいずれか一項に記載の乾燥機において、

前記投入口は略方形形状であり、

前記吹出口は、前記投入口の上辺と平行な下辺と、前記内胴の円周と略同心円上の円弧である上辺とを有することを特徴とする乾燥機。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

請求項1の発明による乾燥機は、左右両端が開口するとともに周面を多孔板で形成し、内部に被乾燥物が投入されて、フレーム内で回転する横型円筒形の内胴と、加熱空気を内胴を通って外部へ送風するファンと、フレームに固定されて、ファンにより内胴に導入される加熱空気を内胴の左右開口から内胴内へ吹き込む一対の吹込口とを備えることを特徴とする。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

請求項2の発明は、請求項1に記載の乾燥機において、内胴の一方端の投入側開口に対応する被乾燥物の投入口と、内胴の他端の取出側開口に対応する被乾燥物の取出口とをさらに備え、一対の吹込口は、投入口および取出口の外部上方に設けられていることを特徴とする。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

請求項3の発明は、請求項2に記載の乾燥機において、一対の吹込口は、互いに略対向する位置に設けられていることを特徴とする。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

請求項4の発明は、請求項1～3のいずれか一項に記載の乾燥機において、各吹込口から内胴内へ吹き込まれる加熱空気の風量が略等しくなるように加熱空気を分配する分配手段をさらに備えることを特徴とする。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

請求項5の発明は、請求項2～4のいずれか一項に記載の乾燥機において、投入口は略方形形状であり、吹出口は、投入口の上辺と平行な下辺と、内胴の円周と略同心円上の円弧である上辺とを有することを特徴とする。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】**【0011】**

- (1) 本発明によれば供給される熱風の損失が少ない。
- (2) そして、被乾燥物の両側に内胴の両端開口から吹き込む熱風が夫々当るので乾燥が効率よく行われ、且つ乾燥時間が短くなる。そして更に省エネルギーとなる。